

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

寒さに命を脅かされている世界の子どもたちに、また3・11以来、避難所などで過ごす被災地の子どもたちに、手作りのセーターを届ける活動をしている会を紹介しましょう。

ニットカフェに集う

西武柳沢駅近くのギャラリイで月2回、「ニットカフェとリ」が開催されます。同好の人と並んで、初心者でも指導を受けながら編み物を楽しむことができるスペースです。「ニットカフェとリ」を運営しているのがNPO法人「世界の子どもたちに暖かいセーターを送る会」です。

取材に訪れた日、自作のセーターを届ける人が入れ替わり訪ねてきました。うち一人の女性は「自分の楽しみが、人に喜んでもらえるなんてうれしいですね」



▶ハートのセーターを編むみなさん
とリこは、フランス語の編み物の意味に由来します。

毛糸は資源

会の代表の小林すみ子さん、長年編み物に親しみ、公民館の編み物サークルの指導もしてきました。そんな小林さんが残念な話を耳にするようになった。編み物をしなくなった人が、使わない毛糸を捨ててしまうというのです。毛糸は資源、活かす方法はないか、と考えていました。

世界にハートのセーターを

そんなときアフガニスタンで学齢前の子どもが4人に1

世界の子どもたちにハートのマークのセーターを送る

人の割合で亡くなっていることを知りました。厳しい生活環境に置かれていた子どもたちは世界の各地にいます。「セーターだったら編めるのじゃないかしら」



陸前高田の保育園児

東日本大震災の被災地にも

セーターを届けるためには現地でのしつかりとした受け入れ先が欠かせません。それでも、政情不安定などで届けるのが困難な地域も存在します。仲介ルートとして「日本救済衣料センター」の存在を知りました。また、現地に訪れる人に直接託すこともあります。

同会が届けるセーターには、胸、袖、裾など、どこかにハートの模様を入れます。「ハートは平和のシンボルです。戦乱のない平和な世の中を願う気持ちから、ハートのマークをつけることに仲間全員の思いが一致しました」と小林さん。

サークル訪問

エビス絵画

ここは谷戸公民館の講座室。エビス絵画の会員が、部屋の中に生けたアジサイの花を囲んで、デッサンをしている真つ最中。鉛筆の音だけが、かすかに部屋に響いています。

入り口近くに座る女性のデッサンをのぞき見すると、花びらの一つ一つや花瓶の陰影など、細部まで描きこまれています。一方、その隣の男性は、大きな形を鉛筆で薄く描いただけで絵筆を持ち替え、いきなり水彩絵の具を塗りだしました。

「時間内にじっくり一枚仕上げられる人もいれば、軽いタッチの作品を三枚仕上げられる人もいますよ。同じものを描いていても、作品はさまざまなんです」。

そう語るのは、会の世話役を引き受けている横田さん。確かに彼女の言うとおり、時間がたつに従い、会員それぞれの作品の個性が際立ってきました。花びらの色ひとつ取っても、色合いはさまざまです。

隣の人が使っている色がきれいだなと思って真似しても、しつこくないのだから。借り物の色では、自分らしさを表現できないということなのでしょう。

構成メンバーは、入会して9年目になる古参会員から、公民館だよりの会員募集を見て、勇気を出して申し込んだと語る新規会員まで、男女合わせて13人。会員同士の交流は盛んで、会が終わった後のお茶会も楽しみの一つです。時には、仲間と連れ



立って、スケッチに出かけることもあるそうです。

画用紙や絵筆、そして絵の具さえあれば、1人でも絵は描けます。でも会員の皆さんは、「自分一人ではなかなかできません」と口をそろえます。

「ここに来れば、先生や仲間のアドバイスが得られ、自分では気づかなかったことを学び、心ができますから」と。

取材をした日は、ちょうど谷戸公民館のロビーで同会の作品展示をしていました。作品の中には、お孫さんの絵を新生児のころからずっと描き続けている須山さんの絵もありました。あどけない表情を浮かべた、つぶらな瞳が印象的な絵でした。

同会は第2・4水曜日の13時から、谷戸公民館で活動中です。興味のある方はご参加ください。
 横田 ☎042-423-1871

